

Mission 1

約半数！高齢者の交通事故を防ぐ

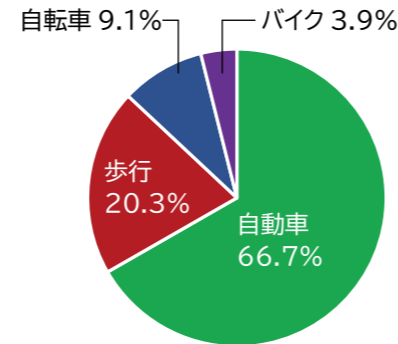
高齢者の交通事故の傾向 — 自動車運転中と横断中の交通事故が増加 —

令和3年 市内の状況
高齢者交通事故件数 **142**人 全体の **47**%

令和3年 長野県の原因別割合
自動車乗車中 **66.7**% 歩行中 **20.3**% 自転車運転中 **9.1**%

65歳以上の運転人口は年々増えており、県内の高齢者に関する交通事故は自動車運転中が最も多く、次いで歩行中の事故が多くなっています。

長野県の高齢者事故原因別割合 (R3)



出典：令和3年長野県交通統計

交通事故を防ぐためにできること

運転中の事故を防ぐ

- ①体調に合わせてゆとりを持った行動を
自分の体調や運動能力に合ったゆとりのある運転を心掛けてください。
- ②慣れた道でも油断せずに慎重に
交通事故は自宅周辺の慣れた場所で起きることが多くなっています。「慣れた道だから大丈夫」と油断せず、気を引き締めて運転しましょう。

歩行中の事故を防ぐ

- ①夕暮れ時や夜間は明るい色の服や反射材を着用
夕暮れ時や夜間に外出する際は、明るい色の服装を心掛けてください。また、車のヘッドライトなどに反射する「反射材」を身に付け、自分の存在を車に知らせましょう。
- ②無理な横断をしない
急いでいるときも横断歩道や信号機のある交差点の横断を。横断前はもちろん、横断中も車が近づいてこないか周囲の安全を確認してください。
- ③高齢者歩行者の存在に注意・早めのライト点灯
横断歩道以外の路肩から歩行者が横断してこないか注意した運転を心掛けましょう。早めのライト点灯は運転者だけでなく、歩行者が自動車の存在に気づきやすくなります。



運転に不安を感じたら・・・
運転免許証の自主返納をご検討ください

運転免許証を自主返納した人にデマンド交通「あづみん」の乗車回数券 9,000 円分を交付します。

対象 自主返納時に市内に住所を有する人
申請方法 自主返納から1年以内に申請書と取消通知書(返納時に警察署が発行)を地域づくり課へ提出



問地域づくり課 ☎71・2495
ID 36663
デマンド交通「あづみん」

トピックス

身近な人とのコミュニケーションが大切

私たちは、年間を通して、反射材を配布し、交通安全を呼びかけていますが、夜間に反射材を身につけている人が少なく残念に感じています。これも気の緩みの一つかもしれません。出かける前に反射材を渡して声をかける。そんな家庭でのコミュニケーションに交通安全を取り入れれば交通事故は防げると信じています。

私たちが交通安全協会では、女性部・自転車部・青年部でそれぞれ交通安全の啓発活動をしています。交通事故は不運だから起きるものではありません。すべての人が思いやりを持ち、普段の心がけをしっかりと行えば防ぐことができます。「自分は大丈夫」という自信と気の緩み。その気持ちを自分でコントロールすることは難しいので、一番身近な家族同士での声掛けが大切だと感じています。例えば、出かける前に「車に気をつけて」「運転を丁寧に」など一言伝えるだけでも意識向上につながります。

INTERVIEW

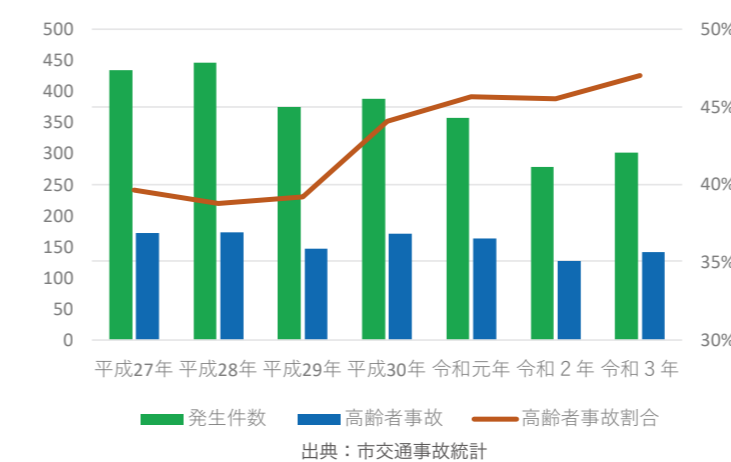


市交通安全協会
会長 宮坂 英文さん

高齢者に関する事故
自転車に関する事故
割合が増えています!

今年6月の夜間、市内で道路を横断中の高齢者が亡くなる交通死亡事故が発生しました。この事故を受け、市は安曇野警察署や市交通安全協会などと現地調査を行い、再発防止策を検討しました。現地調査では、安全強化のための対策が話し合われ、事故の未然防止に向けて改善・充実等の取り組みを推進していきます。今月号では多く発生している高齢者と自転車事故を中心に私たち一人一人ができる交通事故防止を考えます。

市内の交通事故発生状況



	発生件数	死者数	傷病者数	高齢者	自転車
H27	434	1	569	172	38
H28	446	6	575	173	53
H29	375	2	464	147	37
H30	388	1	457	171	30
R1	357	4	415	163	31
R2	279	2	335	127	16
R3	302	1	372	142	30

出典：市交通事故統計

交通事故発生件数は減少
令和3年、市内では302件の交通事故が発生しました。新型コロナウイルスの影響で件数が少なかった令和2年の279件に比べて増加していますが、令和元年の357件、平成30年の388件に比べると減少しています。これは、自動車関連の事故が減少したことが主な理由です。

高齢者と自転車の割合は増加
一方で、近年は高齢者や自転車に関わる交通事故の全体に占める割合が多くなっています。令和3年は、高齢者の交通事故件数は全体の約半分の47割と高い割合となっています。なお、高齢者が関わる事故は、運転する自動車に加害者となる場合と歩行者として被害者となる場合の両側面があります。

また、自転車に関わる事故は、全国的にも増加傾向にあります。交通事故全体の2割前後で推移しており、市内でも令和3年中に30件の自転車事故が発生しました。

暮らしたる近くに潜む交通事故
交通事故の多くは自宅の周辺で起きるといわれています。また、「自分は大丈夫」というわずかな気の緩みや過信が大きな事故を招きます。